

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を元に自分達独自の目標と位置付け作成した基金「のんびりとやさしくすごします。」を実践している。ホーム内の目に付くところに張り出し再確認している。	理念を具体化し、ホールの柱やトイレの戸など事業所内諸所の目に触れる場所に掲示し、日々意識し取り組んでいる。月1回のミーティングで振り返りを行っている。自分らしく暮らせるよう、利用者目線の支援につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	行事や避難訓練に参加して頂いている。又自治会の総会にも参加している。ご近所から野菜や果物を頂いている。インターシップの受け入れもしている。(今年度は出来ていない)	だまっこ会、バーベキューなどには地域の方も参加してくれている。高校生の慰問や、節分には地区の厄年の男性が鬼や祓姿で訪問してくれるなど地域とのつながりがある。近所の方が、外に出られた利用者を見つけ連れてきてくれるなど協力、見守り体制が構築されている。また、りんごやももなどの差し入れを玄関からではなく、勝手口から持ってきてくれることから気持ちの知れた関係性が感じ取れる。	自治会に加入し、缶拾いへの参加の意思を示すも、忙しいでしょうからいいよとの返答があり、参加にはつながっていないとのこと。これからも積極的な姿勢、また事業所としての役割に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に地域の方にも参加して頂いている。ホームの見学、相談はいつでも対応できるよう心掛けている。(コロナ感染症のため運営推進会議は開催していない)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、行事の報告を行っている。その都度頂いた意見は、職員全員で共有し、サービス向上に活かしている。	事業所からの報告と共に、利用者や家族からの意見、また行政からの情報や助言など多角的な視点で積極的に話し合いを行っている。地域の方から避難の方法などについて助言があり、改善やサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域の方にも参加して頂いている。	困難事例などを相談し、また対応してもらうなど懇意な関係となっている。法テラスに相談した事例もあった。生活保護を受給している利用者への定期的な訪問がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い理解するよう努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。施錠については都度話し合い今では1日を通して施錠しなくてもよくなった。	身体拘束の指針があり、定期的に研修を行い職員の共有認識を図っている。夜間、眠らず動かれる利用者があり、転倒のリスクから集音機で動きを察知し対応しているケースがあった。日々変化する利用者の状況に合わせ、医師や家族と相談しながら対応方法を模索していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内の研修の一つとして行っている。外部への研修参加は今年度は感染症のため出来ない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている入居者を通じて少しずつ理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が説明している。不安や疑問をよくお聞きし説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族にも参加して頂き意見を頂いている。又ホーム来訪時意見や要望を伺っている。	運営推進会議やケアプラン作成時などに意見を聞き取るよう努力をしている。利用者からラーメンが食べたいとの意向があり、普段食事形態が軟食だったこともあり、家族と相談しながら対応したケースがあった。また、日中の職員の配置についての心配など様々な意見があげられ、都度真摯に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者から法人本部へお伝えしている。エアコンの設置、ウッドデッキなど実現できている。	月1回のミーティングの他、職員がいつでも話せる環境となっている。職員個々の事情による勤務時間の調整や2ユニットの職員の配置など職員の意見を聞きながら調整をしている。ウッドデッキの設置は、裏庭への出入りが容易になり利用者の生活を豊かにし、また職員の多面的な対応が可能となっていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの家庭の事情に応じた勤務時間を調整している。管理者は職員の頑張りを本部に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外の研修への参加を進めているが今年度は感染症の為法人外への研修は出来ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会で職員同士の交流も出来ている。今年度は月1回の会議も行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やホームの見学に来ていただいた際不安や要望を伺い安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや意見、要望を伺い協力し合える関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という思いで対応させて頂いている。人生の先輩であることを忘れず色々なことを教えて頂き支え合っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし信頼して頂けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族友人からの電話や本人希望でハガキや手紙を出している。	友人の訪問、かかりつけの美容院への外出、また夫の位牌を持ってきている利用者の毎日のお供え、墓参りなど、一人ひとりの生活、交流の継続支援を行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重しつつ孤立しないようお互い関わり合えるよう支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も安心して生活できるよう相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から本人の思いを聞き取り沿えるよう努めている。	把握が困難、不確かな場合でも、会話や生活歴、家族の話により思いを把握し、実現に向けて話し合い、取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族からの情報等を把握し理解するよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや最近の情報について連絡簿から把握し一人一人の状態に反映したケアに努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決め意見を出し合い入居者様、ご家族より意向を伺い介護計画を作成している。	利用者の課題や思い踏まえた利用者主体の介護計画となっていた。放尿する利用者の計画書では、対応の仕方や言葉がけなど細かく統一された内容となっていた。また、身体を動かしたいという利用者の意向から、食器拭きや洗濯物畳みなどを位置付け、役割を持つことで意欲につながられるような支援計画となっていた。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過を記入しミーティングで意見を出し合い介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年であれば地域の行事に参加しているが感染症の為今年度は出来ていない。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様、ご家族の希望を尊重している。かかりつけ医、薬局の変更は相談し決めている。	本人や家族の希望する医療機関の継続は可能であるが、同法人の医療機関を希望するケースが多い。法人の医療機関へは職員が対応している。薬局に関しては殆どが1ヶ所に集約し、薬の飲み合わせや副作用など管理し、また相談などできる関係にある。また週1回看護師の訪問があり、小さなことでも気軽に相談できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に状態の報告をしている。又受診の相談や助言を頂いている。担当看護師直通の電話もあり気軽に相談できる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院関係者との情報交換に努めている。緊急時に対応できるよう総合病院と契約している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時ケアプラン説明時行っている。法人内に病院、老健があり対応がスムーズに出来ている。	これまで看取りのケースはない。契約時に方針、事業所のできることを説明している。家族と話し合いながら、状態に応じて必要な治療、支援が受けられるよう支援している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による救命講習を行っていたが、今年度は出来ていない。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いにて行っていたが、今年度は火災、水害の避難訓練を職員と入居者のみで行っている。7/12大雨にて北の郷に避難した。	年2回消防や地域の方も参加し、日中・夜間想定避難訓練を行っている。その他、水害訓練も行っている。7月には大雨のため防災ラジオにより避難勧告があり、隣接する老人保健施設に避難した。日頃から法人内で協力体制を構築し、活動を共にすることで利用者も安心して避難できた。消防署が近く、1～2分で駆け付けることができる。備蓄やスロープのない避難路には移動式のスロープを購入するなど整備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや対応に気を付けている。必要に応じてミーティングでも話し合いがもたれ再確認ができています。	排泄の誘導時は、認知の状況や難聴などの身体状況を勘案し、周囲に配慮し直接言葉にせず誘導している。また、幻覚など認知症状のある方には本人の尊厳を傷つけないよう対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣服やおやつといった簡単な物ではあるが自己決定を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に出来るだけ希望に沿った対応をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな衣類を着て頂いている。毎日化粧をされる方もいる。食食用エプロンは職員手作りのものを使用して頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切り、食事の後の下膳、食器拭き、テーブル拭き等を楽しみにして手伝って頂いている。	畑ではトマトやキュウリ、すいか、枝豆など一緒に育て、新鮮な物を食事に活かし、季節を感じることができる。利用者もテーブルや食器拭き、食材を切るなど積極的に参加されている。外食やデリバリー、また地域の人や家族と一緒に食事する機会がある。以前、栄養士に献立の指導を受けたことがあり、それを活かしている。手作りのエプロンやランチョンマット、一人ひとりの茶碗、箸があり家庭的な環境での食事を心掛けている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お粥や刻み、ミキサー等個々に合った物を提供している。食べられない物の時は代替品を提供し栄養が取れるよう対応している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、誘導し毎食後行っている。本人の力に応じて促し方も工夫している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間、パターンを共有し支援している。その時の状況に応じ布パンツ、リハビリパンツに変えたり、パットの大きさを変える等の工夫をしている。	本人の状況に応じ、自立に向け段階的な支援に努めている。排泄票を利用し、排泄パターンや状況を把握することで、リハビリパンツから布パンツになった利用者もいる。トイレの場所が分からない利用者にも立体的な目印で示したりと工夫がなされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にはヨーグルト、昼には手作りの寒天を提供している。野菜を多く摂れるよう心掛けている。ホーム内や中庭での散歩、運動を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	湯の温度や入浴時間等、体に湿疹などあり出来るだけ毎日入浴したりと個々に合わせた支援をしている。	入浴日は決まっておらず、毎日入浴も可能である。失禁や湿疹など皮膚の状態により毎日入浴している利用者もいる。その日の状況により、午前・午後と入浴時間は柔軟に対応することもある。床下浴槽となっており、跨ぐ必要がなく手摺りや段差も配慮し安全に入浴できる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自由に自室、ソファ等で休息されている。夜間は安眠できるよう室内の温度や掛物に気を配り気持ちよく眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について分からない事はかかりつけ医、薬局、医療連携の看護師に相談し理解するようにしている。状態の変化は受診時報告している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる仕事(草取り、野菜の収穫、食事の片づけ)を張り合いにして下さっている。又カラオケを購入し楽しまれている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は感染症の影響で安易に外出できていないが、中庭、近所への散歩、ドライブなど出来る限り支援している。	地域のお祭りや季節毎のドライブ、また十和田からの駅伝を沿道で応援するなど、住み慣れた地域を感じることができる外出支援を行っており、利用者の楽しめる工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についてはご家族が管理している。必要な時は立替で購入している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときは電話したり、手紙を出したりしている。年賀状を入居様からご家族へ毎年出している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や職員手作りの絵を飾ったりと工夫している。中庭に出やすいようウッドデッキを作り畑のものを見たり収穫したり季節を感じて頂いている。	共用空間にはソファや椅子を設置し、利用者それぞれの居場所がある。七夕には笹、またお盆にはお盆飾りなどを準備し、季節が感じられるよう配慮している。開放的で明るい空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ、廊下にはベンチ、椅子、テーブルを置きくつろげる空間づくりを心掛けている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの家具などを置き、落ち着いた生活が送れるよう配慮している。仏壇や位牌を置かれているかたもいる。	入り口にある手作りの名札や、ピンクや白を基調とした居室の壁によりが明るく温かい印象である。一人ひとりが安心できるよう、仏壇や位牌、コタツ、普段使っていたタンス、ソファなど馴染みの物を持ち込み、居心地良い空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には手作りの名札、トイレ等の表示は入居者様の目線に合わせる等の工夫をしている。ホーム内には手すりがあり安全に配慮している		